

多賀城市生活交通ネットワーク計画 『3. 公共交通を取り巻く課題』
の解決に向けた令和5年度の取り組み状況

関連ページ	課題① 「まちづくり」と「交通」が連携した公共交通サービス		備考
	課題	取り組み状況	
12 ・ 16	まちの賑わい拠点への利便性向上に向けた公共交通サービスの改善が課題である	多賀城駅前については、バス停留所のロータリー及びバスシェルター（上屋）が整備済みである。 岩切駅前についてはロータリーが整備済みで、令和5年5月にバスシェルターを整備（仙台市施工）し、利便性が向上した。	
関連ページ	課題② バス交通ネットワークの再編		備考
	課題	取り組み状況	
13 ・ 16	災害公営住宅の完成に伴い、ルート再編が課題	桜木、新田、鶴ヶ谷については各バス停留所まで300m圏内にあり、利用し易い環境にある。（宮内除く） 令和6年度に予定している多賀城西部線のルート延伸により、バス停留所を新たに7箇所設置することにより、買い物の足の充実と市内外からの来報者等の利便性の向上を図る。	
13 ・ 16	「宮内災害公営住宅」はバス停がやや遠い	バスについては、JR駅を結ぶ重要路線として運行しているため、宮内地区まで多賀城東部線のバスルートを延長することは難しいが、 <u>今後も持続可能な地域公共交通の実現に向けて、検討を進めながら、新たな公共交通サービスの必要性についても引き続き研究する必要がある。</u>	継続して検討が必要
13 ・ 16	「さんみらい多賀城・復興団地」のバスの利用に関するニーズの把握が必要	バスについては、JR駅を結ぶ重要路線として運行しているため、さんみらい多賀城を通過するバスルートで多賀城西部線を運行することは難しいが、 <u>今後も持続可能な地域公共交通の実現に向けて、検討を進めながら、新たな公共交通サービスの必要性についても引き続き研究する必要がある。</u>	継続して検討が必要

関連ページ	課題③ 安定的なバス事業経営が課題		備考
	課題	取り組み状況	
13 ・ 16	乗車人数、運賃収入はコロナ禍に大きく減少したが、近年は社会実験による効果もあり、乗車人数は回復基調にあるが、収支率の改善も必要である。	乗車人数、運賃収入は、新型コロナウイルス感染拡大によって大きく落ち込んだが、回復基調にある。加えて、社会実験の実施により、利用人数は増加しているものの、運賃収入は横ばい状態。事業者によるバス車内の広告収入や、車体のラッピングによる収入について、今後も検討していく。	
13 ・ 16	路線の定着化と新規利用者の開拓、それに伴いバスサービスの向上が必要である。	西部線のルートの変更により、新規利用者の増加を見込みながら、朝夕の既利用者が乗車する時間帯はそのままにして、バス路線の定着化を図る。電子決済の導入など、今後もサービスの向上に努めていく。	
13 ・ 16	社会情勢の変化を見据えた継続的な運賃体系の見直しの検討を行う必要がある。	社会実験による、無償化を実施しているが、収支バランスも考慮しながら、今後の施策も含めて検討していく。	

関連ページ	課題④ 鉄道・バス乗り継ぎ需要に対応した交通拠点づくり		備考
	課題	取り組み状況	
14 ・ 16	鉄道や他の路線バスとの乗り継ぎを考慮したダイヤを求める意見もあり、鉄道ダイヤに対応し、また道路の混雑状況によりバスの遅れが発生することを見越したダイヤを設定する必要がある。	仙石線多賀城駅を発着する電車について 朝・夕の通勤通学時間帯は10分に1本 日中は15分に1本 東北本線岩切駅を発着する電車について 朝・夕の通勤通学時間帯は12分に1本 日中は20分に1本 程度運行している。多賀城西部線は1時間に1本程度であるが、バスの発着時刻に合わせて鉄道を利用すれば乗り継ぎはスムーズに行えるが、今後も利便性の向上のため、バスダイヤについて検討していく。	
14 ・ 16	ダイヤ調整だけでなく、バスルートが改善が求められる。	令和6年度に予定している多賀城西部線のルート延伸により、留ヶ谷地区及び東北歴史博物館への新バス停留所設置により、買い物客や東北本線国府多賀城駅へのアクセスが可能となり、利便増進を見込む。	

関連ページ	課題⑤ 高齢者・免許返納者の増加など需要変化への対応		備考
	課題	取り組み状況	
14 ・ 16	高齢化社会の進展を見据え、高齢者の利用特性に合わせた対応、運転手の声掛けや安全な運行によるサービス水準の向上等の取組を行い、移動手段を確保することが重要である。	東部線、西部線ともノンステップバスを採用し、体が不自由な方でも乗車可能なように車いす乗車も可能である。 社会実験により、高齢者の利用が増加し外出する機会の増加に繋がっている。	
関連ページ	課題⑥ 利用環境		備考
	課題	取り組み状況	
15 ・ 16	記載なし	多賀城東部線は、従来より Suica や icca などがご利用可能となっているが、令和6年4月から多賀城西部線で電子マネー（PayPay）の利用を開始し、利用者の利便性の向上につなげる。	
関連ページ	課題⑦ 隣接市町の利用需要への対応		備考
	課題	取り組み状況	
15 ・ 16	市内を走るバス路線は8路線あり、七ヶ浜町など隣接市町に跨っており、隣接市町を含めた調整が必要と考えられる。	令和6年度に予定している多賀城西部線のルート延伸により、東北本線塩釜駅に近くに乗入れることから、利便性の向上が見込まれる。定期的に塩竈市、七ヶ浜町の担当者と意見交換や会議を実施し、互いに乗り入れている路線の運行状況等確認し情報共有している。	
15 ・ 16	バス事業者によってバス停の利用案内やバスマップ、HP等でのバス情報の公開形式、料金支払い方法が異なっているため、慣れない利用者にはわかりにくい状況である	それぞれの事業者が工夫や特色を活かし、利用者の利便性を考えて、バス停の利用案内やバスマップ、HP等でバス情報の公開をしている。バスの大きさも種類も異なり、運行システムも違うので、事業者ごとに異なるのはやむを得ないが、利用者の利便性の向上につながる新たな方策や情報については、公共交通会議等で話題にし、検討していく。	